

(社) 日本原子力学会
第84回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 27 年 3 月 4 日 (水) 14:30～17:00
場 所 日本原子力学会 事務局会議室
出席者 大場委員長、宮越副委員長、作田幹事、内山委員、宇奈手委員、大鷹委員、
金山委員、辻委員、中野委員、奈良林委員、福家委員
柴田副会長 (12 名：委員名簿順)
北村氏 (オブザーバー)

配布資料

- 資料84-1 第83回倫理委員会議事要旨 (案)
- 資料84-2 第18回倫理研究会報告資料
- 資料84-3(1) 2015年春の年会倫理委員会企画セッションの対応状況について
- 資料84-3(2) 本津波対策に見る倫理的側面の考察 (予稿)
- 資料84-3(3) 本津波対策に見る倫理的側面の考察 (プレゼン資料)
- 資料84-4(1) 倫理委員会／事例集に関する件
- 資料84-4(2) 事例集／各委員コメントおよび反映状況一覧表
- 資料84-4(3) 東日本大震災の事例に学ぶ今後の技術者倫理 (事例集)
- 資料84-5(1) 学会事故調の提言・課題のフォロー
- 資料84-5(2) 学会事故調最終報告書 (抜粋)
- 資料84-6 平成26年度事業報告 (案) 及び平成27年度事業計画 (案) について
- 資料84-7-1(1) 広報、情報伝達に関する規程
- 資料84-7-1(2) 学会長・副学会長・広報情報委員会との意見交換会概要メモ
- 資料84-7-1(3) NHK殿宛て文書
- 資料84-7-2 倫理委員会ホームページの整備状況

議事

1. 資料 84-1 により、前回議事要旨 (案) を確認し、了承された。柴田副会長から 1 月 30 日の理事会ではポジション・ステートメント WG の議論が出なかったため、次回の広報情報委員会で説明する予定であること、金山委員が理事会で正式に承認された旨の紹介があった。
2. 資料 84-2 により、第 18 回倫理研究会の結果について、宇奈手委員から説明があった。報告書については、現在、大場委員長がまとめている。研究会に対するアンケートで、今までは好事例と不適切事例の希望を一緒に聞いていたが、今後はそれぞれに分けて希望を聞くこととした。今後の研究会担当委員は、今回のアンケートを参考に内容を考えていくこととし、次回の委員会で議論することとした。
3. 資料 84-3(1)(2)(3) により、2015 年春の年会企画セッションについて、福家委員および宇奈手委員から説明があった。質疑応答時には、机を前に設置し、講演者に前に出してもらうこととした。何に焦点を絞って議論するか、事前に詰めておく必要がある。プレゼン資料 (資料 84-3(3)) に関して種々の議論があった。倫理的良好事例の説明図においては、「備え (青の矢印)」を上げると「災害対応 (緑の矢印)」に対するモチベーションは、人間の特性からは下がる方向に行くことは認識しておく必要がある。適切な処置と業務範囲との関連表においては、

「業務範囲内外」よりも「想定内外」のほうがわかりやすいとの意見があった。現時点では、講演者の内容が把握できていないので、大場委員長が講演者に対して講演資料を頂くお願いをすることとした。宇奈手委員は、それに合わせて資料を修正することとした。本企画セッションでは、予稿ではなくてプレゼン資料を配布することとした。

4. 資料84-4により、事例集について、宇奈手委員から説明があり、議論した。リーダーシップは、今までは上から下への関係として理解していたが、現在は、あらゆる層で発揮すべきものであり、次回の倫理規程改定時にはこれを反映させる必要がある。「はじめに」は初めての人が読んでもわかるように丁寧に書く。検討のポイントは、字句が多すぎると読みにくい。「原発」は「原子力発電所」の表現のほうがよい。福島事故の前には、「東電」を入れるが、入れ方については煩雑にならないように目次の注書きに入れるなどの工夫が必要。「・」と「/」、「退避」と「待避」の使い方は統一する。福島第1の2号機では、海水注水により圧力が上がって、C/Vからリークしており、ベントが必要であったことの時系列を入れたほうがよい。また、最終的に水を入れてデブリを冷やすところまで含めたほうがよい。女川、福島第1および第2の全体像がわかる資料を作ることもしよい。事実関係は、報告書のどこに書かれてあるかを明記し、作り話の部分を分けて考えるとよい。事例集の発行目途は、5月で、イラストも含めたものを考えている。宇奈手委員はコメント反映版をメールで送り、委員は再度、コメントを提出することとした。
5. 資料84-5により、事故提言・課題フォロー分科会によるフォローについて、宮越副委員長から説明があった。第1回目のフォロー結果を3月中旬までに開催の方向で調整中。
6. 資料84-6により、平成26年度事業報告（案）および平成27年度事業計画（案）について、作田幹事から説明があった。事業計画（案）について「東電福島事故に係る事例集」を「東日本大震災に係る事例集」に、「講習会・研究会」を「研究会や倫理研修」に修正することで了承された。
7. 資料84-7-1(2)(3)により、NHKスペシャル番組への抗議について、奈良林委員から説明があり、種々の議論がなされた。マスコミへの抗議については、学会としてやるべきものかの議論も必要。一方、抗議しなければ報道された内容が正になってしまう。行動の手引3-2「科学的事実の尊重」に基づいて行動していることになるが、ひとつの条項だけにとらわれて行動するのは規程の主旨に反する。周りの人達に正しいと思っていただけるようなアプローチでないといけない。「広報、情報伝達に関する規程（資料84-7-1(1)）」の第5条（社会への情報発信）第1項において、誰が判断するのかの主語が抜けている。今後、学会としての倫理論、手続き論について議論していくこととした。

資料84-7-2により、倫理委員会ホームページの整備状況について、作田幹事から説明があった。今後、未整備のものについて検討していくこととした。
8. その他として、作田幹事の退任に伴い、後任の幹事に宇奈手委員が就任することについて了承された。
9. 次回の倫理委員会の日程は、H27年5月とするが、日程については大場委員長が調整メールを発信することとした。

以上